広島大学大学院人間社会科学研究科紀要「教育学研究」第４号　2023　129－132

中国の大学生と大学の水泳教員における「水中安全教育」に関する認識と態度についての文献レビュー

周　鵬程・齊藤一彦・松本佑介・海老名和華
（2023年10月６日受理）

A Literature Review of Perceptions and Attitudes toward Education of Water Safety among Chinese College Students and University Swimming Teachers

Pengcheng Zhou, Kazuhiko Saito, Yusuke Matsumoto and Waka Ebina

Abstract: The purpose of this study was to identify past results and future issues regarding knowledge, skills, emotions, cognition, and behavior in education of water safety among Chinese university students and university swimming teachers. The results of this study are summarized as follows:
(1) Although there were regional differences in the swimming ability of university students, it was clear that the overall situation of education of water safety in Chinese universities is serious and that there are still major problems in the knowledge and skills of university students regarding education of water safety. The cognition of education of water safety among Chinese university students is inadequate, and their behavior regarding “underwater safety education” also needs to be improved.
(2) It is not only a problem that university swimming teachers are not sufficiently qualified to implement education of water safety, but it is also clear that university swimming teachers do not place importance on education of water safety. For the future implementation of education of water safety multifaceted instruction that includes knowledge, skills, emotions, cognition, and behavior related to education of water safety according to the individual situations of university students is required.

Key words: education of water safety, recognition, attitude
キーワード：「水中安全教育」，認識，態度

１．研究の背景と問題の所在

中国において，溺死は，不慮の事故[注1)]による死因の第３位である（農・楊，2006）。そのため，「泳げること」は現代社会において，身を守るための重要な技能とされている（王，2017）。また，「中華人民共和国教育法」には，安全教育や安全管理における大学の責任，ならびに，大学生が享受すべき権利と果たさなければならない義務の両方が規定されている（全国人民代表大会，1995）。そして，2016年，中国教育部は，「休暇中の学生の溺水事故に関する早期警報のお知らせ」において，水難事故の未然防止に着目して，マルチメディアやインターネットなどを通して，学生に対し，水難事故を防止するための知識と技能を紹介することを提唱していた（中国教育部，2016）。しかし，大学でのプール施設が普及されていないため，現行の法律や政策の中で，「水中安全教育」（Education of Water Safety）に関する実施義務が明記されていない。この

ことから，中国で充実した「水中安全教育」が実施されていないことが推測できる。

中国の伝統的な水泳授業は泳力に関する指導に偏り，「水中安全教育」に関する知識および水中でのサバイバルや溺れた人を救助するための技能に関する指導が不足していると指摘されている（頼ら，2019）。そして，中国において，「水中安全教育」を含む水泳教育はプール施設が比較的に充実している大学で実施されている現状がある（頼ら，2019）。加えて，張（2017）は，大学生および大学の水泳教員が「水中安全教育」に関する知識，技能，そして態度における３要素[注2)]の中でも認知と行動を理解することによって，水難事故の低減につながると述べている。さらに，馮（2017）は態度における３要素が一致しない際，感情が主な態度の決定要因となるとしている。したがって，「水中安全教育」に関する感情的要素もいれて，「水中安全教育」の現状を検討することが必要であろう。

しかし，中国の大学における「水中安全教育」の知識・技能・感情・認知・行動について，これまでの成果や今後の課題は明らかにされていない。「水中安全教育」の知識・技能・感情・認知・行動に関する先行研究を整理することで，これまでの成果や今後の課題を明らかにすることができると考えられる。中国の大学生と大学の水泳教員に関する「水中安全教育」の知識・技能・感情・認知・行動についての文献レビューが必要であろう。

２．研究の目的

本研究では，中国の大学生および大学の水泳教員における「水中安全教育」の知識・技能・感情・認知・行動に関する先行研究を整理し，これまでの成果や今後の課題を明らかにすることを目的とした。

３．研究の方法

中国の大学生および大学の水泳教員における「水中安全教育」の知識・技能・感情・認知・行動に関する先行研究を収集するために，中国の論文検索サイトである CNKI（China National Knowledge Infrastructure）で「大学　水泳授業」，「大学　水泳教育」をキーワードとして OR 検索を行った。検索の結果，計314編が該当した。まず，学会発表の抄録およびシンポジウムの内容を記載した文献，ならびに大学の「水中安全教育」に関連しない先行研究を除外した。最後に中国の大学生および大学の水泳教員における「水中安全教育」の知識・技能・感情・認知・行動に関する先行研究のみに絞り，計10編が該当した。また，知識・技能は認識に含まれ[注3)]，感情・認知・行動は態度の3要素として含まれる。そのため，それらの研究を，「水中安全教育」に関する認識と「水中安全教育」に関する態度に分けた（表１）。

表１．分析対象とした先行研究一覧

	著者	発行年	タイトル
認識	韓保衡	2022	安全教育の視点からみた大学の水泳授業の構築に関する研究
	張騰・黄永良・傅紀良	2019	大学生を対象とした水中安全教育のカリキュラム構築
	石碩	2014	大学生の水中安全教育に関する知識の調査研究
	徐惠・梁超英・符社	2015	公立大学における水中安全教育の問題と対策
	張騰・陳潔星	2022	生存教育の理念に基づく水泳専門教育―問題の反省と改革―
	楊国標	2015	安全に着目した水泳技能に関する研究
	劉添悦	2022	大学の水泳教育における大学生の恐怖感を解消する対策
	翟暁英・崔博	2021	大学の水泳教育の安全確保体制に関する研究
態度	張騰・陳潔星	2022	生存教育の理念に基づく水泳専門教育―問題の反省と改革―
	劉添悦	2022	大学の水泳教育における大学生の恐怖感を解消する対策
	徐惠・梁超英・符社	2015	公立大学での水中安全教育に関する研究
	張輝・王斌・羅時・于洪涛・方朝陽・卜姝	2016	湖北省の大学生における溺水リスクの高い行動に関する調査研究

そして，谷本ら（2018）の先行研究を参考に，「目的」，「方法」，「主な結果」から中国の大学生および大学の水泳教員における「水中安全教育」の成果と課題を分析した（表２）。

４．結果と考察

中国の大学生および大学の水泳教員における「水中安全教育」の認識と態度に関する先行研究の10編（韓，2022；張ら，2019；石，2014；徐ら，2015a；張・陳，2022；楊，2015；劉，2022；翟・崔2021；徐ら，2015b；張ら，2016）のうち，８編（韓，2022；張ら，2019；石，2014；徐ら，2015a；張・陳，2022；楊，2015；劉，2022；翟・崔2021）が「水中安全教育」の認識に関する研究であり，４編（張・陳，2022；劉，2022；徐ら，2015b；張ら，2016）が「水中安全教育」の態度に関する研究である（表１）。なお，張・陳（2022）と劉（2022）は「認識」と「態度」のどちらにも含まれている。

大学生の視点からみると，石（2014）が，対象校の大学生に対し，安全に泳げる状況について調査した結果，約75% の大学生が理解していることが明らかになっている。このことから，大学生における「水中安全教育」に関する知識の獲得に一定の成果があると考えられる。しかしながら，多くの大学生は，「水中安全教育」に関する知識を学ぶのはライフガードの責任であると捉えており，水泳中に生じる安全上の問題に対する理解がまだ不十分であるとされている（石，2014）。また，翟・崔（2021）の調査で，大学生の泳力には地域による差があることが明らかにされている。そして，多くの大学生は「水中安全教育」の実施に対して積極的な態度を保持している状況にあること

表２．「目的」,「方法」,「主な結果」からまとめた先行研究の成果と課題

タイトル	目的	方法	主な結果
安全教育の視点からみた大学の水泳授業の構築に関する研究	中国の大学における水泳教育の現状を明らかにする。	文献分析	中国の大学における水泳授業の内容は，泳法の指導が中心になっており，救命目的の技能の指導が不足している。水泳教員の数も少なく，「水中安全教育」を重要視していないため，「水中安全教育」に関する知識の指導も不足している。
大学生を対象とした水中安全教育のカリキュラム構築	現実の問題や実践経験から，「水中安全教育」のカリキュラムの構築を試みる。そして大学における「水中安全教育」を実施するための一資料とする。	文献分析 フィールド調査 インタビュー調査	中国の大学における「水中安全教育」は不足している。指導内容が単一で，水泳教員自体の「水中安全教育」に関する知識の把握が不足しており，実技を実施しない知識伝達型の「水中安全教育」にとどまっている現状がある。「水中安全教育」のカリキュラムは，「水中安全教育」に関する知識，「水中安全教育」に関する技能，総合的応用（学んだ知識と技能で実践する）の 3 つの要素を含むように構成すべきである。
大学生の水中安全教育に関する知識の調査研究	海南師範大学の大学生における「水中安全教育」に関する知識の現状を明らかにする。	アンケート調査 フィールド調査	多くの大学生は，「水中安全教育」に関する知識を学ぶのはライフガードの責任だと考えている。水泳中に生じる安全上の問題に対する理解が不足している。
公立大学における水中安全教育の問題と対策	大学の水泳授業における「水中安全教育」をよく実施するための参考資料を提供する。	文献分析	大学の授業で水泳教員による「水中安全教育」は，安全への呼びかけにとどまっている現状がある。そして，「水中安全教育」に関する知識と技能はあまり教えられていないため，大学生は大学以外のところから「水中安全教育」に関する知識と技能を習得しなければならないことにもつながっている。また，水泳教員が「水中安全教育」を教えるための資質能力に問題があると指摘している。
生存教育の理念に基づく水泳専門教育―問題の反省と改革―	大学の水泳教育の現状と問題点を明らかにし，今後の課題を提案する。	文献分析 フィールド調査	大学における水泳教育は，「水中安全教育」に関する知識・技能の内容を導入し，そして水難事故を低減するための正しい認知と行動に関する教育内容も不可欠である。
安全に着目した水泳技能に関する研究	安全に着目して，現在の水泳技能の教育に関する現状を明らかにする。	アンケート調査 インタビュー調査	ほとんどの大学は，水難事故に遭った際の対処方法や救助するための指導が不足している。「水中安全教育」において，立ち泳ぎを指導することの重要性が指摘されていた。
大学の水泳教育における大学生の恐怖感を解消する対策	大学生が水への恐怖感につながる要因を明らかにし，今後の水泳教育を推進するための提案をする。	文献分析	大学生に水泳教育を行う際に，水への恐怖感は，大学生の水難事故につながる要因の 1 つとなっている。主な結果として，学生の泳力によって，チーム分けをし，それぞれのチームに応じた技能の指導を行い，最終的に水への恐怖感を低減させた。
大学の水泳教育の安全確保体制に関する研究	大学生と大学の水泳教員に着目して，水泳教育で出てくる安全リスクを分析する。	アンケート調査 インタビュー調査	中国北西部にある陝西省にある 6 つの大学を調査したが，「水中安全教育」の 1 学期に 4 回以上実施していたのは，3 つの大学のみであった。そして，大学生の泳力には地域差がみられた。安全標識を理解している大学生は約 34.5%しかいない。大学生の「水中安全教育」に関する知識と技能の獲得にまだ課題が残っている。
公立大学での水中安全教育に関する研究	大学生と大学の水泳教員が「水中安全教育」に関する態度を明らかにする。	文献分析 アンケート調査	大学生の多くが「水中安全教育」の実施に対して積極的な態度を示していることが明らかにされている。しかし，中国の大学生を対象とした場合，「監視員が不在の時に泳いでいる」,「悪天候で泳ぐ人が時々いる」といった行動が指摘されている。大学生の多くが水泳教員の「水中安全教育」に関する態度の「良さ」が大学生の「水中安全教育」に関する態度の「良さ」に強い影響を与えていると述べている。そして，大学生の「水中安全教育」に関する態度は「水中安全教育」の効果に直接的影響を与えていると述べている。
湖北省の大学生における溺水リスクの高い行動に関する調査研究	湖北省の大学生における「水中安全教育」に関する行動の現状を明らかにする。	アンケート調査	湖北省の大学生は「安全対策のない自然水域で泳いでいる」,「水遊びをする際には安全を考慮していない」といった危険な行動をよくしている。「水中安全教育」をさらに強化することによって，このような危険な行動を改善していくことが喫緊の課題である。

が明らかになった(徐ら，2015b)。とはいうものの,「安全対策のない自然水域で泳いでいる」,「水遊びをする際には安全を考慮していない」などといった水難事故につながるリスクの高い行動がよくみられている（徐ら，2015b)。

水泳教員の視点からみると，張ら（2019）は，主に文献研究を通して,「水中安全教育」に関する基礎理論,「水中安全教育」に関する技能，総合的応用という3つの要素から「水中安全教育」のカリキュラムを構築することの重要性を明らかにしている。そして,劉(2022)は，水泳教育の前に大学生の身体状況を把握し，水泳教育を行う際，水温，水深といった環境的要素を考慮しながら，大学生の泳力に応じた技能の指導を行うことで，大学生の水への恐怖感を低減にさせることができ，最終的に事故防止につながると述べている。しかし，中国の大学における水泳教育は，指導内容が単一で，泳法の指導が中心になっており,「水中安全教育」における知識と技能を指導することが不足している。さらに，水泳教員自体の「水中安全教育」に関する知識の把握に課題があるとされている（韓，2022;張ら，2019)。現在,大学の水泳教員における「水中安全教育」を実施するための資質能力に問題があるという懸念も挙げられている（徐ら,2015a)。また,「水中安全教育」の実施が義務付けられていないため,「水中安全教育」に関する実技を実施しない知識伝達型の教育にとどまっている現状や安全への呼びかけに止まっている現状が見受けられる（張ら，2019；徐ら，2015a)。以上のことから，中国の大学で充実した「水中安全教育」が実施されていないことが考えられる。徐ら（2015a）が主張するように，大学生はさらに「水中安全教育」に関する知識と技能を強化するためには，大学以外の場において，知識と技能を習得しなければならない。しかし，現在の中国の大学で実施している「水中安全教育」は不十分であると考えられる。

５．まとめ

本研究では，中国の大学生および大学の水泳教員における「水中安全教育」の認識と態度に関する先行研究を整理し，これまでの成果や今後の課題を明らかにすることを目的とした。その結果，以下の２点が明らかになった。

①中国の大学生の「水中安全教育」に関する知識の獲得と「水中安全教育」の実施に対する態度から一定の教育的成果があると考えられた。しかし，全体的に中国の大学生の「水中安全教育」に関する知識と技能の獲得が不足しているといえる。また，中国の大学生における「水中安全教育」に関する認知と行動についても，課題が残されており,「水中安全教育」を強化することによって，改善していく必要があると考えら

れた。

②「水中安全教育」のカリキュラムを構築する際に考慮すべき要素が明らかになった。加えて，大学の水泳教員が「水中安全教育」を実施するための資質能力と「水中安全教育」を十分に重視していないことが課題となっている。今後の「水中安全教育」の実施に向けて，多面的に「水中安全教育」を実施することが期待されている。

今後は，本研究で明らかになった課題の改善や，「水中安全教育」に関する知識・技能・感情・認知・行動などを含んだ多面的指導による効果的な「水中安全教育」の実施が求められている。

【注釈】

1)不慮の事故とは，偶発的に起こった事故のことをいう。

2)態度は，感情的要素，認知的要素，行動的要素という３つの要素から構成される（児玉・石隈，2015）。

3)体育における認識は「わかる」として考えられる（玉腰，2017）。そして，体育における認識としての「わかる」は様々な使い方があるとされている（玉腰，2017）。例えば，運動感覚としての認識に「身体でわかる」という表現や，知識としての認識に言語的・論理的に「わかる」という表現で使い分ける場合がある（高橋ら，1989）。そして，中嶋・森（2016）は，体育固有の「わかる」は「身体でわかる」ことであり，「身体でわかる」ことは「できる（技能）」に当たると述べている。つまり，体育において，知識と技能は認識に含まれるといえよう。

【引用参考文献】

農全興，楊莉（2006）．小児溺水に関する疫学研究の進展．中国公共衛生，**22**（3）：363-365.

王成（2017）．大学水泳授業の指導理念を変える３つの方向性について．南京体育学院学報，**16**（5）：11-15.

全国人民代表大会（1995）．中華人民共和国教育法．第８回全国人民代表大会第３回会議.

中華人民共和国教育部（2016）．休暇中の学生の溺水事故に関する早期警報のお知らせ．http://www.moe.gov.cn/srcsite/A11/s7057/201608/t20160804_274040.html（参照日2022年8月31日）

頼志傑，黄飛，袁海渓（2019）．大学生水中安全教育におけるSWOT分析－広州の大学を事例として－．学校体育学，**9**（16）：153-156.

張輝（2017）．大学生の水中安全教育における階層型教育モデルに関する研究．華中師範大学，博士学位論文.

馮暁明（2017）．一般大学の水泳技能を向上するための方法．山西能源学院院報，**30**（2）：164-166.

谷本真理子，芥田ゆみ，和泉成子（2018）日本におけるアドバンスケアプランニング研究に関する統合的文献レビュー．Palliative Care Research，**13**（4）：341-355.

韓保衛（2022）．安全教育の視点からみた大学の水泳授業の構築に関する研究．黄河水利職業技術学院院報，**34**（1）：94-97.

張騰，黄永良，傅紀良（2019）．大学生を対象とした水中安全教育のカリキュラム構築．福建体育科技，**38**（1）：51-54.

石碩（2014）．大学生の水中安全教育に関する知識の調査研究．改革与開放，**12**：54-55.

徐恵，梁超英，符壮（2015a）．公立大学における水中安全教育の問題と対策．学校体育学，**5**（32）：115-116.

張騰，陳潔星（2022）．生存教育の理念に基づく水泳専門教育－問題の反省と改革－．福建体育科技，**41**（5）：87-92.

楊国標（2015）．安全に着目した水泳技能に関する研究．学校体育学，**5**（34）：141-142.

劉添悦（2022）．大学の水泳教育における大学生の恐怖感を解消する対策．体育科学，**3**：85-87.

翟暁英・崔博（2021）．大学の水泳教育の安全確保体制に関する研究．体育視野，**17**：50-51.

徐恵，梁超英，符壮（2015b）．公立大学での水中安全教育に関する研究．学校体育学，**5**（4）：80-81.

張輝・王斌・羅時・于洪涛・方朝陽・卜姝（2016）．湖北省の大学生における溺水リスクの高い行動に関する調査研究．湖北体育科技，**35**（4）：300-303.

児玉裕巳，石隈利紀（2015）．中学・高校生の学習に対する態度についての研究－認知・行動・情緒の3側面からの検討－．教育心理学研究，**63**（3）：199-216.

玉腰和典（2017）．体育科教育における認識対象の構造的特徴に関する考察－出原泰明の実践を分析対象として－．日本教科教育学会誌，**39**（4）：1-11.

高橋健夫，林恒明，藤井喜一，大貫耕一（1989）．「わかる」と「できる」をめぐって．体育科教育，**37**（11）：57-61．大修館書店.

中嶋悠貴，森勇示（2016）．我が国の体育科教育における「わかる」に関する論考の系譜．愛知教育大学保健体育講座研究紀要，**41**：19-30.